



第40回 「Introduction to Model Context Protocol」 Anthropic 公式 Claude Academy

Claude Code

頼み方を使う

公式の教材を、順番に

原石工房

隠れた才能に気づき、花開く

この資料について



原石工房

Anthropic とは関係のない、非公式の資料です

公式の学習サイト Claude Academy の日本語訳です

原文（英語）Introduction to Model Context Protocol /
Prompts in the client

このコースの最終回です

全51回の、今日はここ



原石工房

Claude Code 101

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12

第1回～第12回

Claude Code in Action

13 14 15 16 17 18 19 20 21

第13回～第21回

スキル

22 23 24 25 26 27

第22回～第27回

手分け (subagents)

28 29 30 31

第28回～第31回

MCP 入門

32 33 34 35 36 37 38 39 40

第32回～第40回

MCP 応用

41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51

第41回～第51回

今日はここ 第40回



Introduction to MCP の第9回

原題 Prompts in the client

訳 それをつなぐ側から使う

つなぐ側を作る、最後の段です

① 作るのは、2つの働き

原題 Implementing List Prompts

つなぐ側を作る、最後の段

`list_prompts()`

頼み方の一覧をもらう

やりとりの「並べる働き」を呼び、返ってきたものを返すだけ

`get_prompt()`

1つの頼み方を取ってくる

渡すものが、ひな型の中へ埋め込まれる

`format_document` が `doc_id` を待っているなら

渡すものは `{"doc_id": "plan.md"}`

この値が、ひな型の中へ埋め込まれます

並べる働きと、取ってくる働き

`list_prompts()` 頼み方の一覧をもらう。素直な働きです

`get_prompt()` 1つの頼み方を取ってくる。こちらが面白いところです

差し込むものの埋め込みを、`get_prompt` が扱います

① 渡すものが、埋め込まれる



原石工房

原題 Getting Individual Prompts

つなぐ側を作る、最後の段

`list_prompts()`

頼み方の一覧をもらう

やりとりの「並べる働き」を呼び、返ってきたものを返すだけ

`get_prompt()`

1つの頼み方を取ってくる

渡すものが、ひな型の中へ埋め込まれる

`format_document` が `doc_id` を待っているなら

渡すものは `{"doc_id": "plan.md"}`

この値が、ひな型の中へ埋め込まれます

並べる働きと、取ってくる働き

頼み方を取ってくるとき、渡すものを添えます

それが、頼み方の働きへ、名前つきの中身として渡ります

`format_document` が `doc_id` を待っているなら、`{"doc_id": "plan.md"}` です

② 実際に動かす



原石工房

原題 Testing Prompts in Action

スラッシュを打つと、命令として出てくる

① / を打つと、使える頼み方が命令として出る

② format のような頼み方を選ぶ

③ 次に、どの書類にするかを選ぶ

④ できあがった頼みごとが、まるごと Claude へ送られる

Claude は、形を直す指示と、書類の番号の両方を受け取る
そして、使える道具で中身を取ってきて、処理します

使う人が打つのは、/ の1文字から

/ を打つと、使える頼み方が命令として出ます

format を選ぶと、次にどの書類にするかを選びます

できあがった頼みごとが、まるごと Claude へ送られます

③ 頼み方は、どう働くのか



原石工房

原題 How Prompts Work

頼み方の、ひと続きの流れ

書いて、確かめる

そのサーバーの働きに合う頼み方を

サーバーに定める

@mcp.prompt の飾りを使って

つなぐ側が求める

いつでも、取ってこられる

渡したものが入る

名前付きの中身として、働きへ渡る

整った言葉が返る

AI へ送れる形で

出来がよく、よく試されていて、そのサーバーの役目に合っているべきです

使い回せて、差し替えのきく頼み方

書いて、確かめる → サーバーに定める → つなぐ側が求める

渡したものが、名前付きの中身として働きへ渡る

その働きが、AI へ送れる形に整った言葉を返します

差し出す3つ



原石工房

道具

呼ぶと、何かをする

Claude が選んで動かす。書き換えもできる

資料

呼ばずに、中身を渡す

@ で指すと、頼みごとに入る。読むだけ

頼み方

指示のひな型を渡す

/ で呼ぶと、練られた指示が送られる

9回で、この3つを作れるようになった

④ ここまでで、3つそろった



原石工房

ここまでで、サーバーが差し出す3つがそろった

道具

呼ぶと、何かをしてくれる

第34～36回

資料

呼ばずに、中身をそのまま渡せる

第37～38回

頼み方

よく練られた指示の、ひな型

第39～40回

込み入った流れで、毎回きちんと組み立てられた指示を渡したいときに効く

道具 呼ぶと、何かをしてくれる (第34～36回)

資料 呼ばずに、中身をそのまま渡せる (第37～38回)

頼み方 よく練られた指示の、ひな型 (第39～40回)

9回で、作る側をひと回りした

今回のまとめ



原石工房

作るのは、並べる働きと、取ってくる働きの2つ

渡したものが、ひな型の中へ埋め込まれる

/ を打つと、頼み方が命令として出てくる

使い回せて、差し替えのきく頼み方になる

込み入った流れで、毎回きちんとした指示を渡したいときに効く

ここでコースが終わります



原石工房

Introduction to MCP（全9回）は、ここまで

第32回から第40回まで、作る側の9回を読みました

サーバーが差し出すのは、道具・資料・頼み方の3つでした

次からは最後のコース「MCP: Advanced Topics」に入ります

あなたなら、何を差し出しますか



原石工房

隠れた才能に気づき、花開く